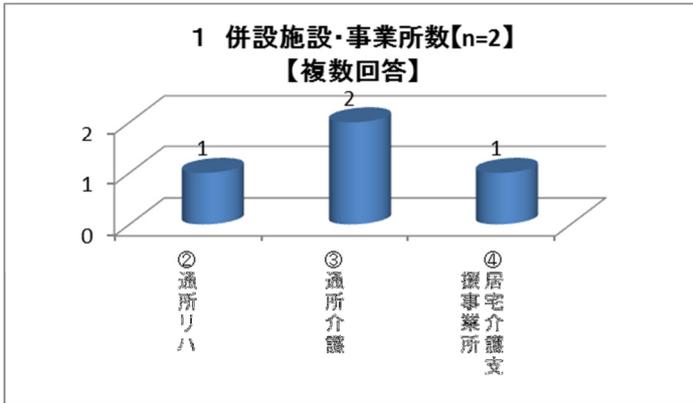


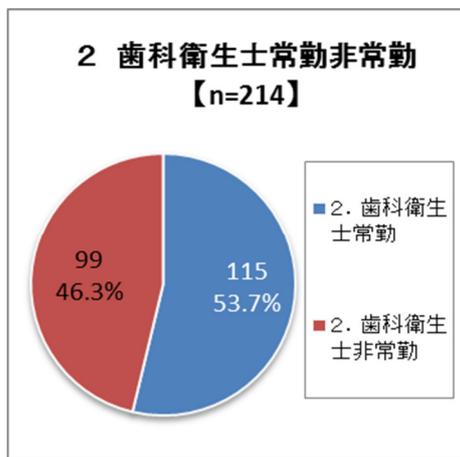
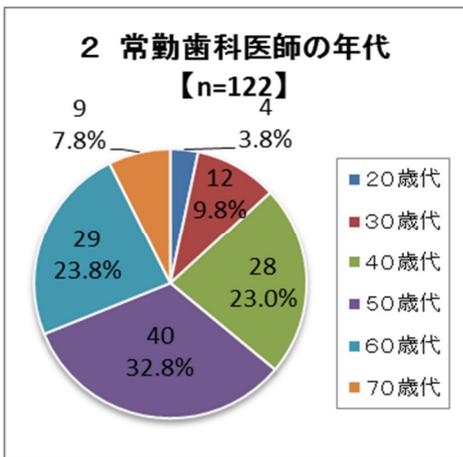
(3) 歯科診療所(99カ所)

1 併設施設・併設事業所



併設施設のある2か所について、2か所とも「②通所介護」を併設していた。

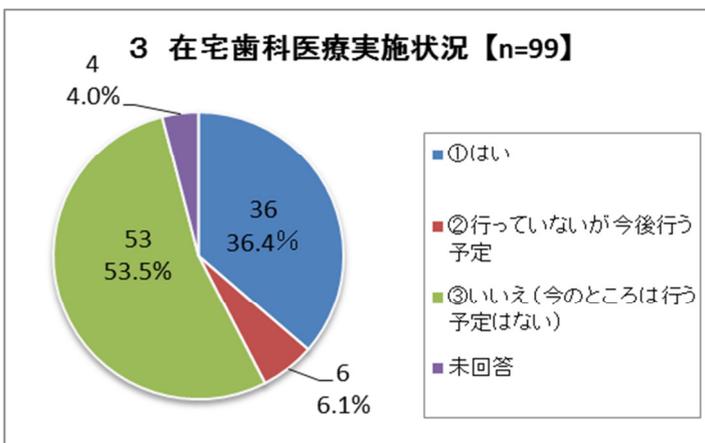
2 常勤歯科・歯科衛生士



常勤歯科医師の年代について、20歳代～50歳代が84人(68.9%)を占めていた。

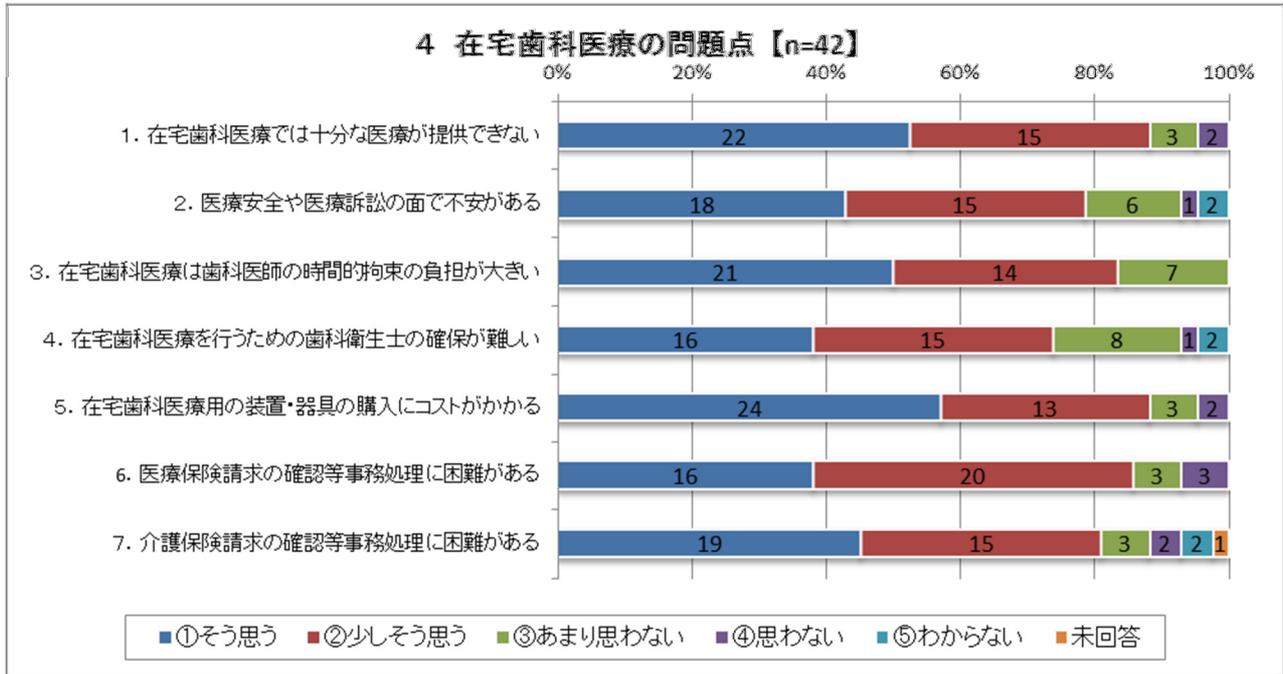
歯科衛生士は、115人(53.7%)が常勤であった。

3 在宅歯科医療の実施状況



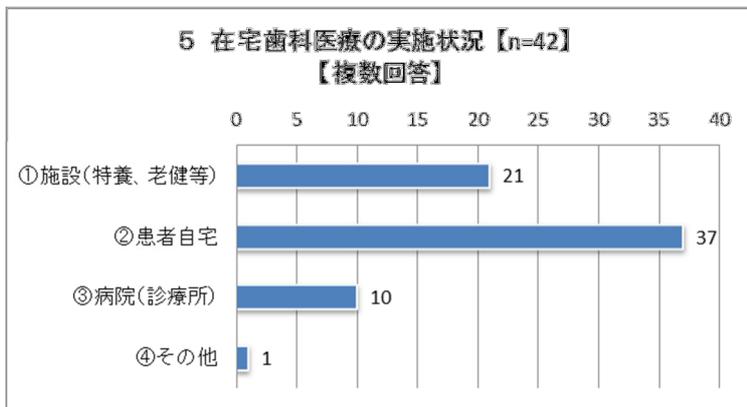
在宅歯科医療の実施状況について、「①在宅歯科医療実施」「②今後行う予定」の歯科診療所が42件(42.5%)、「③行う予定がない」が53件(53.5%)であった。

4 在宅歯科医療の問題点(設問3で①～②と回答された診療所のみ)



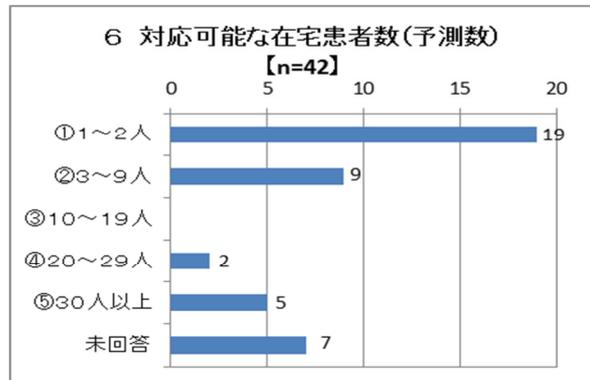
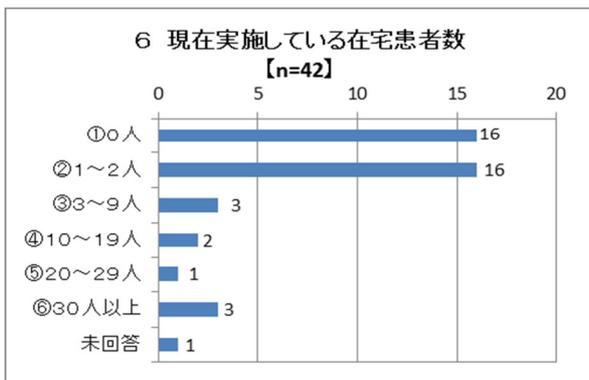
在宅歯科医療の問題点について、「1.在宅歯科医療では十分な医療が提供できない」「5.在宅歯科医療用の装置・器具の購入にコストがかかる」について、「思う」（「①そう思う」＋「②少しそう思う」）がそれぞれ37件(88.1%)と多かった。

5 在宅歯科医療の実施状況(設問3で①～②と回答された診療所のみ)



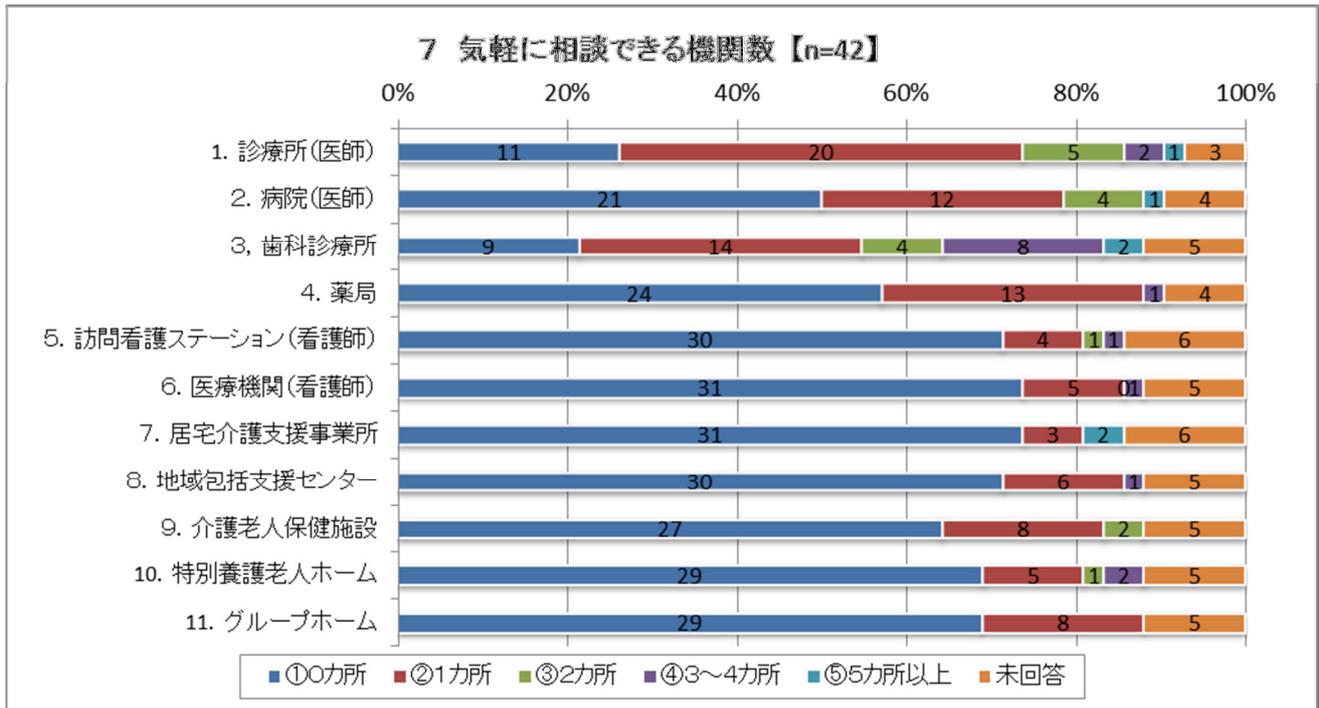
在宅歯科医療を実施、実施を予定している42件について、「②患者自宅」が最も多く37件(88.1%)、ついで「施設」21件(50.0%)であった。

6 在宅歯科医療を行っている患者数、及び現体制のままで1ヶ月間に対応可能な患者数



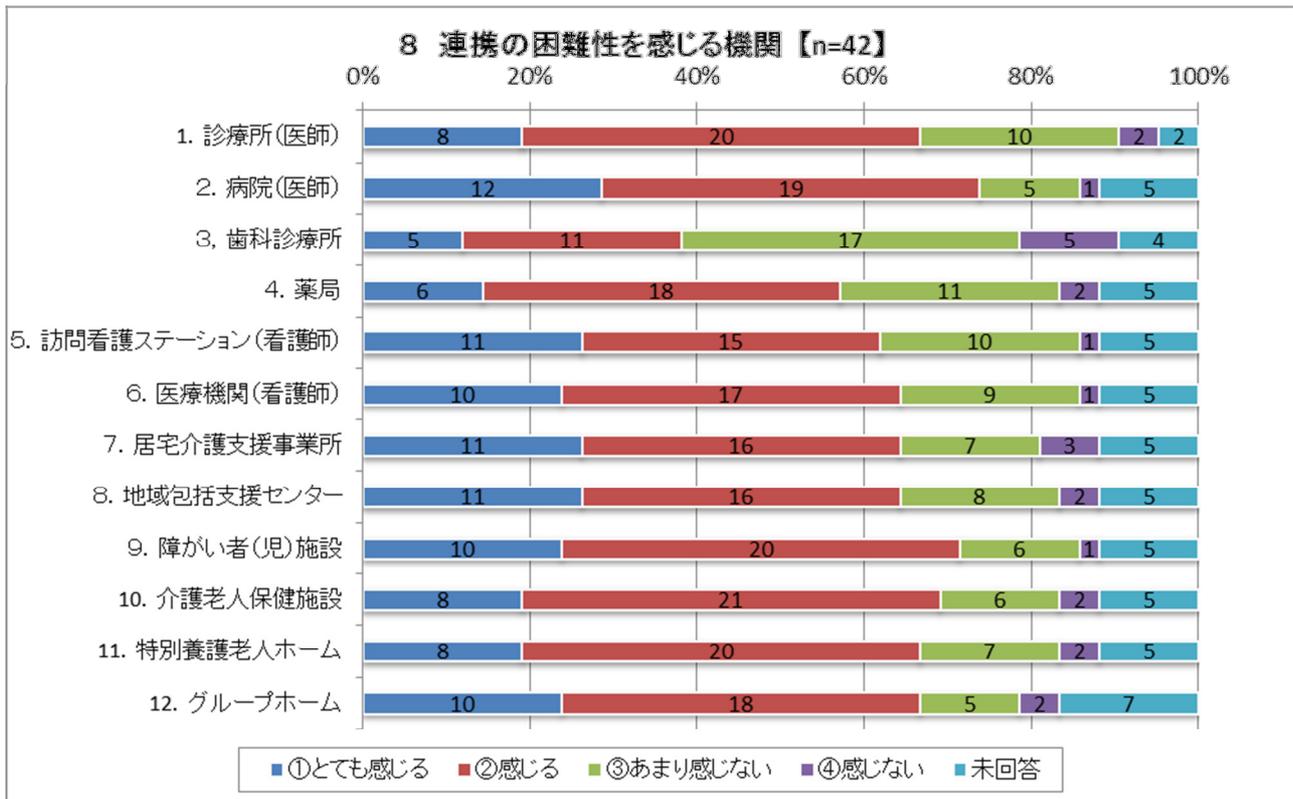
現在在宅歯科医療を行っている患者数は、「②1～2人」が16件(38.1%)、対応可能な在宅患者数は、「①1～2人」が19件(45.2%)と多かった。

7 気軽に相談できる連携機関



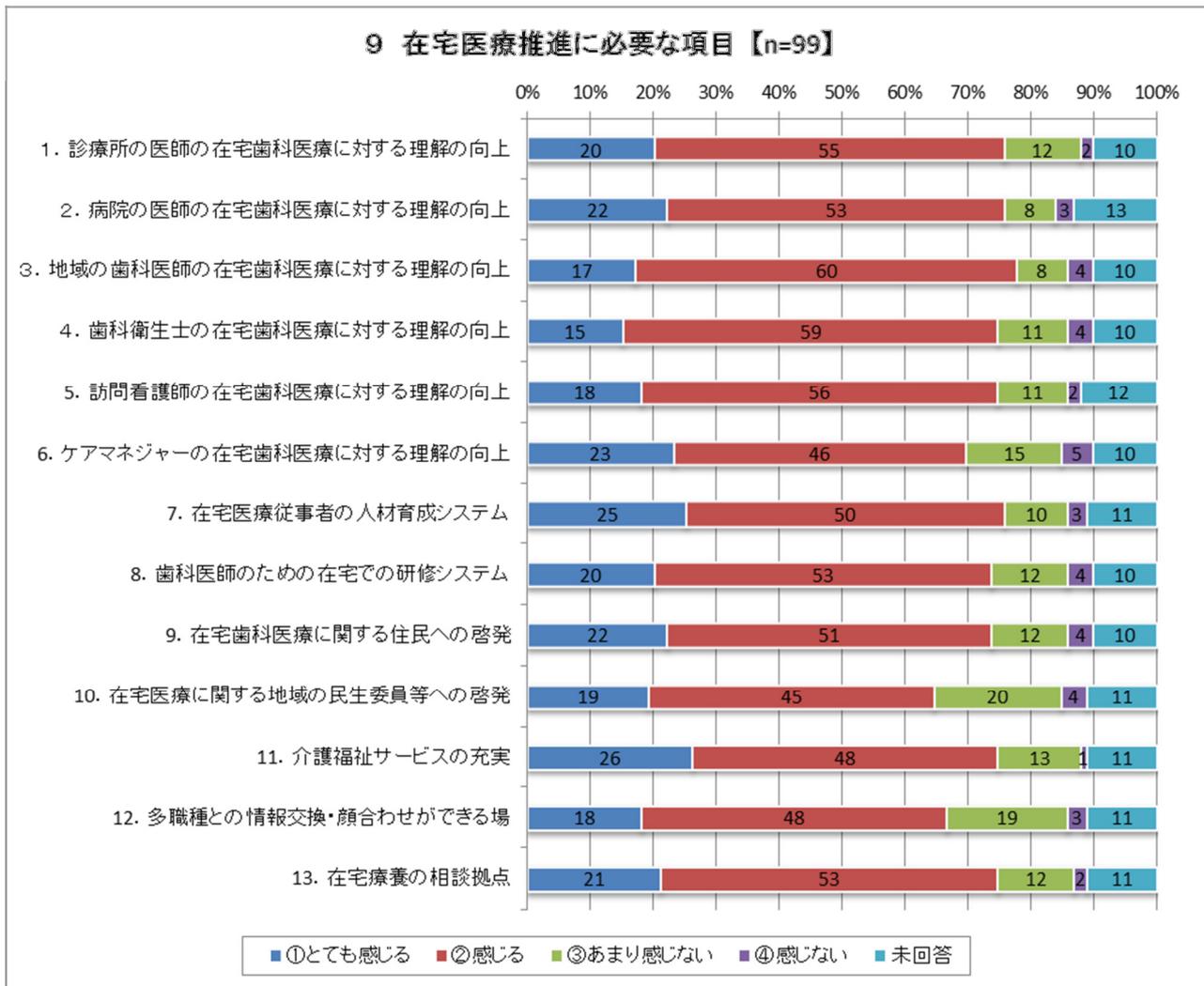
気軽に相談できる連携機関として、「1.診療所(医師)」「3.歯科診療所」を挙げている歯科診療所が28件(66.7%)と多かった。一方、「①0カ所」は、「6.医療機関(看護師)」「7.居宅介護支援事業所」がそれぞれ31件(73.8%)と最も多かった。

8 連携強化が困難な機関



連携の困難性を感じる機関として、「感じる」(「①とても感じる」+「②感じる」)は、「病院(医師)」が31件(73.8%)と最も多かった。

9 在宅歯科医療推進のための必要項目



在宅歯科医療推進のための必要事項として、「感じる」（「①とても感じる」＋「②感じる」）は、「3.地域の歯科医師在宅歯科医療に対する理解の向上」が77件(77.8%)が最も多かった。

10 在宅医療についてのご意見

在宅歯科医療を行う環境が整っていません。歯科医師自身の教育と経験、人材(歯科衛生師)の不足

(訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、特別養護老人ホーム、グループホーム)市や郡単位でこれら事業所の担当者とは在宅訪問医療可能なDr.との顔合わせやつながりの場がもっと必要と思われる。

・歯科であれば、すべての上記施設は「往診可能な歯科医院」について把握できてないと思う、知ってもらいたいことが大事だと思う。

多職種との情報交換ができる場を 公的機関が中心となって定期的に設置していただけたらと思います。

有病者の在宅での診療に医師の助言が速やかに得られるシステム構築する事も重要と思われます。

患者さんのご家族が、在宅歯科医療の限界を理解できない事があるので、患者さんの体力等を考えると通院できる患者さんとは、治療が異なることを事前に理解しておいてもらう事が必要であると思う